

金沢市立千坂小学校

〔はじめに〕

本校は、金沢市の北部に位置し、昭和28年に開校した。全校児童は、654名、教職員は41名である。

学校の周辺には、たくさんのレンコン田が広がり、地域の特産物となっている。また、学校近辺には、「千坂ネイチャーフィールド」という学校園もあり、自然に親しむことができる。校区内には、国道8号線や北陸自動車道、JR北陸線などが走っており、交通量が多いのも特徴である。

平成23年度から、ユネスコスクールの認定を受け、地域や環境をテーマとして、持続発展教育の実践に取り組んでいる。

魅力発見！わたしのまち「千坂」

1 ユネスコスクールとしての取組

1年生 「しぜんとなかよし」

本学年は生活科を主としながら、地域の自然や地域の人とかかわることを通して、それらに関心を深めるとともに校区に対する親しみがもてるようになることをねらいとしている。

「きせつとあそぼう はるがいっぱい」の単元では、地域の公園へ行き、春見つけをした。春の草花や生き物と触れあい、季節を感じる事が出来た。「なつだいすき」の単元では、春との違い見つけを行い、季節の変化と自然の変化に気付いた。「あきといっしょ」では地域の公園へ年長さんと共に秋見つけに行った。その後秋の自然物を利用して、おもちゃ作りを楽しんだ。そして、自分たちが楽しんだ遊びを年長さんにも体験してもらおうと、年長さんのことを考えて改良を重ね、千坂保育園の年長児を「楽しい秋のわくわくランド」に招待した。児童一人一人が年長児に遊び方を教えたり、手をつないで案内したりするなど、年下の年長児の気持ちに配慮しながら行動し、積極的にコミュニケーションをとるような主体的な姿が見られた。本単元を通して、児童が地域の自然や人に関心を深め、それらに親しみがもてるようになっていると思われた。



2年生 「あそんでためしてくふうして」

生活科の学習では、ペットボトルや空き箱などの不要品を使ったエコなおもちゃを作り、関連して国語科でおもちゃの作り方の説明書を書いた。おもちゃランドを開いて1年生を招待し、楽しく遊んでもらうこと、おみやげにおもちゃの作り方の説明書を渡して1年生にも作ってもらえるようにすることをめあてに学習を進めた。準備では、年下の1年生のことを考えながらゲームを工夫し、説明書をわかりやすく書こうと配慮していた。おもちゃランドの日には、1年生に遊び方を優しく教えたり、コミュニケーションをとろうと働きかけたりと主体的に活動する姿が多く見られた。

また、エコなおもちゃを地域の人にも知らせようと考え、地域の保育所や幼稚園、公民館や学童などへおもちゃの見本と説明書を届けた。園児からは、おもちゃを作って楽しんだという手紙をもらい、交流の機会をもつことができた。本単元を通して、児童が地域の人に関心を深め、親しみがもてるようになった。

3年生 「伝統行事を学ぶ ～祭りだワッショイ～」

3年生では、地域の祭りについて見たり聞いたり体験したりする学習に取り組んできた。金沢市の「百万石祭り」について調べたり「百万石音頭」を踊ったりすることで、祭りが地域の伝統として残っていることに気づくことができた。

その気づきを、地域の祭りを調べる活動につなげた。夏休みに、親や祖父母や地域の方から、地域の祭りについて聞いたり調べたり



体験したりすることができた。調べたことをグループ発表会で交流し合い、それぞれの地域に残っている伝統行事について楽しく学び合うことができた。また、調べたことを保護者や地域の方に伝えるために、授業参観で発表したり、公民館に掲示し地域へ発信したりすることもできた。この学習を通して、他の地域の祭りについても知ることができ、興味関心が高まり、千坂地区の伝統行事を守り伝えていきたいという気持ちを持つことができた。

4年生 「ぼくたち地球防衛隊」

ごみ処理とその再利用の課題、水の浄化作用等の社会科学習と関連させて、総合的な学習の時間には、自分たちが環境保全のためにできることを考え、実践することに取り組んだ。ごみ焼却場や不燃物の埋め立て場、リサイクルセンターなどの社会科見学を通して、金沢市が抱えるごみ問題について理解を深めた子ども達は、自分たちにできることは何か考えた。そして、ごみ問題で地球が困っていることを呼びかけるポスターや新聞を校内に貼ったり、ごみ問題を解決するための策を調べて校内放送したり、授業参観で保護者の方に伝えたりした。「ぼくたち地球防衛隊」の学習を通して、現在学校で取り組んでいるエコ活動や、これからできる家庭での取り組みに関心を高め、この千坂校区から地球環境を守っていくのだという意識を育てることができた。

5年生 「千坂の宝！加賀レンコン」

千坂の特産物である加賀レンコンをこれからも大切に守っていくために、自分達でできることを考えた。自分達でレンコンを栽培し、それを地域の方に販売し、おいしさや栄養をアピールする計画を立てた。10月にはレンコン掘りをして収穫の大変さと喜びを体験し、さらに1月には「レンコンパラダイス祭り」というイベントを開き販売した。ちらしを配ったり、ポスターをはったりして集客し栄養やおいしさについて、試食やクイズなど様々な方法で発信することができた。当日は、たくさんの地域の方が来校され、子ども達は大きな声で販売に励み、「加賀レンコンは千坂の宝である」ことをますます実感することができた。



6年生 「いいね金沢 ユネスコ・クラフト創造都市」

自分達の住む金沢についてより詳しく知るために、1学期には「金沢百万石まつり」の由来や歴史等について、調べ学習を進めた。調べたことをPower Pointや新聞にまとめ、発表を行った。また、2学期には、金沢が「歴史都市」「ユネスコ・クラフト創造都市」に認定された意味を考え、「金沢のすばらしさを他の県の人に伝えよう」というテーマで、「金沢の名所」「伝統工芸品」についてまとめ、パンフレット作りをした。これまでも名所や伝統工芸について学習したことはあるが、今回さらに詳しく調べ、パンフレットにまとめることで、今までの努力や金沢の魅力をさらに知ることができた。その後、これからの金沢をどんな町にしていきたいかについて話し合った。全国的にも注目されている金沢だが、「金沢がますます好きになった」「他の県の人にもっときてほしい」「伝統を守りながらさらに発展して行ってほしい」とふり返りに書いていた。

児童会の取り組み

環境委員会では、学校エコプロジェクトの一環として古紙回収に取り組んできた。紙はゴミではなく、資源であるという意識のもとに地球防衛隊を結成し、集会やテレビ放送で呼びかけを行った。回収した古紙はトイレットペーパーに交換してもらい、児童に見える形で意識の向上をはかってきた。その他にも、エコ7箇条チェック週間を行い、日常的にエコ活動を行ってきた。意識が高いクラスをエコ認定クラスとして発表することで、身近な所から環境を守っていこうとする気持ちを育てることができた。

2 成果と課題

ユネスコスクール加盟5年目であり、総合的な学習の時間を中心としたESDも定着してきた。今年度は昨年度の課題であった、地域へ直接発信することを最終目標に各学年取り組んできた。夏期研修では思考ツールを活用し、発信方法を模索する話し合いを職員で体験した。その研修を生かし、その後の発信では、児童館や公民館を使って発信する学年や、直接地域の方を招いての発信、保育所など地域施設に出向いての発信など、伝えたいことにどの方法が合うのか考えながらメッセージを発信することができた。

来年度から「金沢ふるさと学習」が始まり、さらに主体的に学ぶことが重要となる。一人ひとりが課題意識を持ち、主体的に学習を進められるよう「知る・関わる・考え行動する・広める」の学習展開を大切に、カリキュラムを充実させていきたい。